

2013年6月25日

報道各位

子ども防災ネットワークおかやま事務局

## 子ども防災体験プログラム

『出前授業』幼稚園・保育園募集のお知らせ

子ども防災ネットワークおかやま（事務局：全労済岡山県本部内）は今年度も下記の内容にて、県内の幼稚園・保育園において、「防災体験プログラム」の出前授業を行ないます。ぜひ多くの関係者のみなさまにご周知いただけますよう、ご協力をお願い申し上げます。

— 記 —

- |      |   |
|------|---|
| タイトル | 防災体験プログラム<地震が来たらどうする？><br>～幼児期の防災教育で育む「自分を守る力」と「命を慈しむ心」～  |
| 所要時間 | 準備 1 時間弱、体験 1 時間半（標準）、片付けはその後 15 分程度  |
| 対象年齢 | 5～6 歳児＝年長さん ※年少・年中児も見学できます。保護者の観覧も可能です。   |
| 開催内容 | ①地震のこともっと知ろう ～ 地震発生！揺れたらダンゴムシ<br>②地震が収まったら ～ ケガをしないように避難しよう（たまごの殻踏み体験）<br>③誰かが助けを呼んでいるよ！（ジャッキを使った救助体験）<br>④ケガをした時に役に立つもの作ろう！（包帯づくり） |
| 参加費  | 無料。ただし、卵の殻、ブルーシートなど園でご準備いただくものがあります。  |
- 子ども防災ネットワークおかやまは、2011年3月の東日本大震災の後、当時の全労済岡山県本部が防災教育活動の推進のために、県内の NPO などに（※）呼びかけて設立した団体です。  
※＝NPO 法人子ども劇場岡山県センター、NPO 法人子どもセンター、認定 NPO 法人子ども劇場笠岡センター、一般社団法人チカク

## お問い合わせ、お申込みは

子ども防災ネットワークおかやま 事務局  
〒700-8569 岡山市北区駅元町6-26 こくみん共済 COOP <全労済>  
TEL 086-254-0995 FAX 086-250-0210

## ★子ども防災ネットワークおかやまについて

2011年の東日本大震災の際に、多くの子どもたちの命を救った釜石市の防災教育の取り組みや、「つなみてんでんこ」という言葉が取りざたされたことを、ご記憶の方も多いと思います。それは、子どもたちが自然の脅威に直面した時に必要な「自らを守るための知恵」を、わかりやすく、くりかえし伝え、学ぶ場がその土地にあったということでもありました。

震災の記憶が薄れ行く中で、将来にわたって震災の教訓を伝えていくための仕組みを、地域の中で地域のみなさんと一緒につくることの必要性を感じて、私たち、「子ども防災ネットワーク おかやま」の活動は2011年10月にはじまりました。自然災害の少ない岡山でも、震災の教訓を子どもたちに伝え、防災・減災について家庭で考える機会にすること。そして、子どもたちが自然の脅威の前でも、自分で考えて行動し希望を持って生きていく勇気を持てるように、さまざまなアプローチから活動を進めています。

## ★防災体験プログラム 実施園について ※2013.6.25現在。実施予定含む

◎2011.11.1	若竹の園（倉敷市）	◆2012.2.24	岡山聖園幼稚園（岡山市）
◆2012.2.27	みのり幼稚園（倉敷市）	◆2012.2.28	金光幼稚園（浅口市）
◆2012.4.23	はやおき保育園（倉敷市）	◆2012.4.24	黒崎保育園（倉敷市）
◆2012.4.25	弘恵保育園（倉敷市）	◆2012.6.11	内山下幼稚園（岡山市）
◆2012.6.21	荘内南幼稚園（玉野市）	◆2012.6.29	日比幼稚園+和田幼稚園（玉野市）
◆2012.9.7	津山西幼稚園（津山市）	○2012.10.30	操明幼稚園（岡山市）
○2012.11.21	野谷幼稚園（岡山市）	◆2013.1.18	一宮保育所（津山市）
◆2013.1.23	矢掛幼稚園（小田郡）	◆2013.3.7	若竹の園（倉敷市）
◆2013.4.19	遍照保育園（倉敷市）	◆2013.6.28	和井田保育園（倉敷市）
◆2013.8.1	スマイル保育園（総社市）	◆2013.9.10	倉敷東幼稚園（倉敷市）

◆国崎信江監修「防災体験プログラム」実施園 ◎デモンストレーション



## ★セミナー、イベントなど

- 2011.12.3 子どもたちに伝えたい防災のこと キックオフセミナー（ママカリフォーラムレセプションホール）
- 2012.3.4 子どもたちに伝えたい防災のこと2012（アリオ倉敷・倉敷みらい公園・三井OP/倉敷市共催）
- 2013.3.10 子どもたちに伝えたい防災のこと2013（アリオ倉敷/倉敷市共催）
- 2013.5.12 親子鑑賞会 人形劇「稲むらの火」（岡山国際交流センター）

# 防災体験プログラムのご案内

～ 幼児期の防災教育で育む「自分を守る力」と「命を慈しむ心」～

幼児期の経験に、無意味なことはひとつもありません。

経験したことはのちに大きな意味をもつこともあり、大人への準備期間として、人生の礎(いしずえ)となる大切なことを、日常生活から学びます。例えば、転んで足を擦りむいて痛い思いをする、何かにぶつかってたんこぶを作るなど、くり返し危険なことに遭いながら危険な状況や場所を理解し、次に同じことにならないように学習します。



また、カメやウサギ、ハムスターなどの身近な動物の世話を通じて、相手に対してやさしい気持ちを抱き、命に限りがあることを知る経験をします。

こういった経験は防災にとっても大変重要であり、幼児期の子どもたちに次のような意識を形成していきます。

- 日常生活に潜む「危険を知り」、「安全を意識」する力
- 場所や状況を「適切に判断」し、自らの身体を守る「行動力」
- 「命の大切さや重みを感じる心」を育み、自分の命は「自分で守るという意識」

このようなことから、防災教育を幼児期から始めることは、子どもたちのその後の人生にとっても意義深く、重要であると言えます。

この体験プログラムは、危機管理アドバイザーの国崎信江先生の監修のもと、むやみに災害時の恐怖心を植えつけることなく、楽しみながら「自分の体を守る」ことを体で感じ、体得できるよう考えられています。

全労済岡山県本部と県内のNPOは、2012年から、県内の幼稚園・保育園のご希望に応じてこの【国崎プログラム】の出前授業を行っています。

ご希望の園は、別紙のお申込書で、子ども防災ネットワークおかやま までお申込ください。

子ども防災ネットワークおかやま 事務局

〒700-8569 岡山市北区駅元町 6-26 こくみん共済 coop <全労済>内

TEL 086-254-0995 FAX 086-250-0210

URL <http://www.kodomobousai.net/>

子ども防災  
ネットワーク  
おかやま♥

## 実施概要

タイトル 国崎信江監修 | 防災体験プログラム〈地震が来たらどうする?〉  
～幼児期の防災教育で育む「自分を守る力」と「命を慈しむ心」～

所要時間 準備1時間、体験1時間半(標準)、片付けはその後15分程度

対象年齢 5～6歳児＝年長さん ※年中さん、年少さんの見学についてはご相談ください。

開催内容 ※開催順は会場の仕様によって変更することがあります。

- あいさつ
- 地震のこともっと知ろう ～ 地震発生!揺れたらダンゴムシ
- 地震が収まったら ～ ケガをしないように避難しよう(たまごの殻踏み体験)
- 誰かが助けを呼んでいるよ! (ジャッキを使った救助体験)
- ケガをした時に役に立つものを作ろう! (包帯づくり)
- おしまいのお話

主催者さま(幼稚園・保育園)にご用意いただくもの

- 講師用の椅子あるいは、演台(読み聞かせ用)、人数によってはマイク
- よく洗って乾かした卵の殻…ふたつに割った状態  
※保護者にご協力いただくか給食施設のもの。園児一人卵十個程度が目安です。
- ブルーシート、ほうき・ちりとり、足拭き用の古タオル3-4枚、ベビーパウダー
- カラーマジックペン(油性)、机の上に敷く新聞紙  
※マジックは各色セットがテーブルにひとつあるようなイメージで結構です。
- 包帯を束ねるカラーゴムかりボン、制作した包帯を入れる綺麗な箱など
- それぞれの場面で、子どもたちや先生に「お手伝い」をおねがいますので、あらかじめ候補を決めておいていただけると幸いです。  
※避難路確認(1名)、卵の殻ふみ(1名)、ジャッキ(3名+先生1名)、包帯(3名)

こちらで準備し、持参するもの

- ジャンボ絵本 防災「そなえる」
- 子ども用の軍手とヘルメット3セット、大きなぬいぐるみ、がれき、防災用ジャッキ
- 大人用ヘルメットと軍手1セット
- 包帯用の古シーツ

確認事項 お申し込みいただく際に以下の事柄について、別紙ファクスでお知らせ下さい。

- 施設のお名前、住所・郵便番号・お電話番号・ファクス番号・メールアドレス
- 代表者のお名前(フルネーム)と連絡先電話番号
- 担当の先生のお名前(フルネーム)と連絡先電話番号
- 園児の年齢と人数、その他注意事項
- 会場仕様 ※包帯づくりの際のみ机を使用します。
- 駐車場 ※通常スタッフ2-3名でお伺いします。
- 記録(公式ブログへの掲載含む)のため、当日の撮影許可



## 遊びを通して覚えよう

… 紙芝居や絵本、歌などの遊びを通して防災意識を楽しく学びましょう。また、子どもたちのよく知っているダンゴムシをまねて、地震が起きたときの身の守り方を、学びます。



## 卵の殻の上を歩いてみよう

… 卵の殻の上を歩くことで、災害時、上からだけでなく足元にも危険があることを知らせましょう。卵の殻だとケガはしないが、ガラスだったらどうなるのか、子どもたちと一緒に考えるようにします。



## ジャッキを使った救出体験

… 実際に子どもが救助活動を行うことはありませんが、身近なもので人を助けることができるということや、人を助けるというやさしい気持ちを育むことが目的であることを意識して行います。子ども自身が挟まれたときを想定し、必ず助けが来るから安心して、希望を捨てずに待つこと、挟まれたことを大人に早く伝える方法なども伝えます。



## 包帯を作ろう

… ケガをした人のために、シーツを使った包帯を子どもたちといっしょに作ります。子どもたちの作った包帯がいつか誰かの役に立つかもしれないという思いが伝わるように話をします

# 子ども防災ネットワークおかやま宛 申込書 兼 ヒアリングシート

## 防災体験プログラム＜地震が来たらどうする？＞

お申込施設名	
住所	〒
電話番号	
ファクス番号	
メールアドレス	
代表者氏名・連絡先	電話番号
担当者氏名・連絡先	電話番号
参加者(年齢) 対象は年長さんです。 ※年少・年中さんの見学、 保護者の見学のご希望な どあればご記入下さい	
会場について	包帯づくりの時のみ机が必要。会場仕様によっては開催順や内容を変更します
実施希望日、曜日	原則として9時にお伺いし、10時開始11時半体験終了が目安です
駐車場について	通常、スタッフ2～3名で伺います
当日の撮影について	記録などのため当日の様子の写真撮影をご許可いただければ幸いです

上記にご記入の上、  
事務局までファクスで  
お送りください。

子ども防災ネットワークおかやま 事務局  
〒700-8569 岡山市北区駅元町 6-26 こくみん共済 coop <全労済>内  
TEL 086-254-0995 FAX 086-250-0210

子育て支援事業などに取り組む一般社団法人チカク（倉敷市阿知）、全労済県本部（岡山市北区駅元町）などは、子ども向けの体験型防災教育プログラムの開発、普及に取り組

んでいる。11月に倉敷市の保育園でモデル授業を開催。その模様を収めたビデオを使って3日、防災教育セミナーを岡山市で開く。（大橋洋平）

# 卵の殻踏み「がれき」体験／シーツで包帯作り

## 早くから防災意識を

### 子ども向けプログラム開発、普及

卵の殻を踏み、がれきの危険性を学ぶ園児。11月、若竹の園



プログラムは東日本大震災を教訓に、幼児期から災害への対応力を養うのが狙い。全労済県本部が社会貢献活動として企画し、チカク、NPO法人子ども

## 倉敷・チカクど岡山であすセミナー

保育園「若竹の園」で開かれたモデル授業は園児約50人が参加。シートに敷き詰めた卵の殻約200個分の上を恐る恐る歩き、「痛い」「足に刺さった」と声を上げた。国崎さんが「これがガラスだったら？」と問い掛けると、「危ない」「血だらけになる」。園生活で素足が多い幼児に、がれきの危険性を伝えた。

破ったシーツでの包帯作り、頭を守る「ダンゴ虫のポーズ」にも挑戦。国崎さんの軽快な語り口で盛り上がりながら、園児たちは災害の恐ろしさや対策、周囲への気配りなどを学んだ。

国崎さんは「体験させることで災害時にま

ず体が動く。人格形成の鍵を握る幼児期だからこそ、こうした教育の効果は高い」と話す。

防災教育セミナーは3日午前10時から、岡山市北区駅元町のママカリフォーラムで開催。モデル授業のビデオを見て防災教育について考える。定員250人。無料。

セミナーで出た意見はプログラムに反映。チカク、子ども劇場のスタッフらが来年1月から、希望する保育園や幼稚園を巡り、プログラムに基づく授業を実演する。

チカクの赤木美子代表は「堅苦しすぎず、幼くても興味を持つ手法で、子どもたちに生きる知恵を教えたい」と話している。

問い合わせは全労済県本部（086-254-2155）。

